

病院の PFI の推進にむけて
～普及期に入った病院 PFI の狙いと募集選定～

都立多摩広域基幹病院（仮称）および小児総合医療センター（仮称） 整備等 PFI 事業の審査の視点（ねらい）と今後の期待

八巻 昭宏 東京都病院経営本部経営企画部 副参事

現在、我が国は、大幅な財政赤字や、急速な少子高齢化などの要因によって諸制度の転換に迫られている。特に、医療制度においては、「医療提供体制の改革のビジョン」や、今年 4 月の診療報酬改定、医療制度改革関連法の成立など、従来の医療法改正とは異なる抜本的な構造改革が本格的に動き出そうとしている状況である。このような激変の時期に、多摩広域基幹病院（仮称）および小児総合医療センター整備等事業（以下、「当事業」という。）の PFI 事業者の選定が行われ、8 月末には PFI 事業契約が締結され、平成 21 年度末の開院を目指して計画を進めている。

当事業は、「都立病院改革マスタープラン」及び、より具体的な実施計画である「都立病院改革実行プログラム」に基づき、府中病院を「多摩広域基幹病院」として再編整備し運営するとともに、清瀬小児病院・八王子小児病院・梅ヶ丘病院を移転、統合し、「小児総合医療センター」として再編整備する事業である。さらに、より効率的かつ効果的に事業を推進していくため、2 病院の複合施設として PFI 手法の導入を企図した。事業概要は図のとおりである。

【図 整備の機能・規模】

	センター的医療機能	重点医療課題
多摩広域基幹病院 入院規模：789 床 外来規模：1,500 人程度/日	三次救急医療 結核医療 精神科救急医療	がん医療、難病医療、骨髄移植医療 障害者歯科医療、心臓病医療、 脳血管疾患医療、専門リハビリテー ション医療、キャリアオーバー医療
小児総合医療センター 入院規模：561 床 外来規模：750 人程度/日	小児専門医療 （心臓病・がん医療等） 小児救急医療 小児精神医療 周産期医療	小児結核医療、小児難病医療、小児 骨髄移植医療、小児臓器移植医療 思春期医療、障害児歯科医療 キャリアオーバー医療

当事業の PFI 事業者の募集・審査にあたっては、2 病院 1 事業であること、病院 PFI では 4 番目となるが WTO 政府調達協定適用下での総合評価一般競争入札による選定は初めてであること、特に小児総合医療センター（仮称）は統合病院であることなど、複合的な課題を抱えながら、事業や募集・選定のスキームを構築し運用してきた。中でも、特に腐心したことは、いかに都の望むものを応募者に伝えよりよい提案を頂くか、また、そのためには都・病院側がしっかりとしたビジョンのもとに自分たちの望むものを明確にしていくかが重要であったと考えているので、具体的な活動を含めて審査の視点（ねらい）を報告したい。

また、当事業においては先行事例を十分研究し、その示唆のもと課題解決を目指したが、いくつかの課題も残しており、今後の期待を含めて、これらについても報告したい。